天理教 江南支部だより

発行先　江南支部
発行日　立教186年７月1日
発行責任者　福西　努
発行住所　甲賀町上野461番地9
７月号　NO276

教祖百四十年祭

立教186年 こどもおぢばがえり開催

「こども横丁」設営準備ひのきしんのお願い

こどもおぢばがえりが再開されます。本年のこども横丁は滋賀教区、京都教区の合同で開催します。急ピッチで準備が進められています。1人も多くのひのきしんをお願いします。

7月5・6・7・8・9・13・14・15・17・18・19・20・23・24日です。

※食事の都合がありますので、参加下さる方は、支部こどもおぢばがえり担当者［龍池分教会長 小林治雄　☎86－3718］までご連絡ください。

朝の信仰読本

中山慶純著

「まさか」を避ける方法

東日本大震災で被災した六十代の女性が、こんな話をしていました。

「津波で家が倒壊したので、しばらくの間、避難所に身を寄せていました。私のスペースは、わずかにたたみ一畳分。とはいえ、実際にたたみはなく与えられたのは一枚の毛布だけ。お風呂も、ビニール製の簡易風呂でした。この年になって、まさかこんな目に遭うとは思いもしませんでした」

人生で「まさか」と思うような事態に巻き込まれることは、誰にでもあり得ることです。しかし教祖は、まさかを避ける方法を私たちに教えてくださっています。

平成二十七年九月に発生した関東・東北豪雨では、茨城県で鬼怒川（きぬがわ）の堤防が決壊し、多くの家が濁流（だくりゅう）にのまれる事態になりました。ところが、その流れに負けず、しかも流れてきたほかの家をも食い止めて、人命を救った一軒の家がありました。

なぜ、その家だけが流されなかったのか。それは、コンクリートの基礎に加えて、地中深くの固い地盤に、杭（くい）がしっかりと打ち込まれていたからなのです。

家を褒めるときは、たいてい「美しい屋根瓦ですね」「太くて立派な柱ですね」などと、見える所を褒めると思います。しかし、あれほどの水害に見舞われると、どれだけ立派な建物でも、根こそぎ持っていかれてしまいます。流されないよう、その場に留（とど）めるためには、基礎を支える見えない杭の力が必要なのです。

ニュースでその家の映像を見たとき、私は「お道の信仰でいうところの杭とは何だろう」と考えました。

たとえばスポーツ選手は、基本的なトレーニングを毎日積み重ねて体力をつけたり、同じ練習を繰り返して技術を磨いたりします。その基本や基礎を築くものは、根性や、やり続ける粘り強さではないでしょうか。それが底力となり、その人を高みへ導いていくのだと思います。

信仰の基本は、おつとめ、おさづけ、ひのきしん、にをいがけなどです。それらも、やり続けることが大切です。特に、人さまのおたすけに掛かっている場合、どんな状況にあっても、「これだけは外せない、大事なことなんだ」と信念をもって、粘り強く続けられるかどうかを、親神様はご覧になっているのではないでしょうか。

「まさか」を避ける方法は、「支える基礎＝続ける力」にあるということを、よく覚えておきたいものです。その力が備わっていれば、まさかの事態に巻き込まれても、困難な状況を乗り越える道が見えてくるのです。

みんなの教理勉強

だめの教えって素晴らしい

飯田照明

だめ（究極）の教えの何とありがたいことか！

はじめて、人間はどうして創り出され、どのように成長したかを教えられた

旧約聖書の「創世記」によると、神は人間と世界のすべてを六日間で創造し、最後の一日は休む日とされたとある。人間は完成されたものとして創造されたのである。しかし、創造の目的については語られていない。

お道の元初まりのお話には、人間を創り出す目的と意図が明らかにされている。どのような創出の準備をし、どのような段取りで創り出し、どのようにしてだんだんと育て上げてきたか、すなわち生命の歩み、生物としての歩みについても、教えられた。

生命は時の流れと共に成長し、生育していくものである。人間は母親の胎内で十月十日かけて成長する。生まれたばかりの赤ちゃんは歩けないし、話せない。一年ほどしてハイハイ、ヨチヨチ歩きを始め、三歳頃から言葉を話す。そして少年期、青年期を経て成人となるのである。

釈迦は生まれ出るなり「天上天下唯我独尊」とおっしゃったという。フィクションである。一瞬のうちに完全な人間を創ったとか、一日で成人した人間を創り出したというのはおとぎ話である。

最初に生み出された小さな生命が、そのあとどのようにして、少しずつ生命体として成長していったか、水中（海）の住まいから陸上に住み始め、そして最後に知恵と文字や言葉が与えられ、文明を築いていく。人間に到るまでの発達の歩みを、詳しく教えられたのである。

はじめて、人間はみな同じ親を持つ兄弟姉妹であるという真実を教えられた

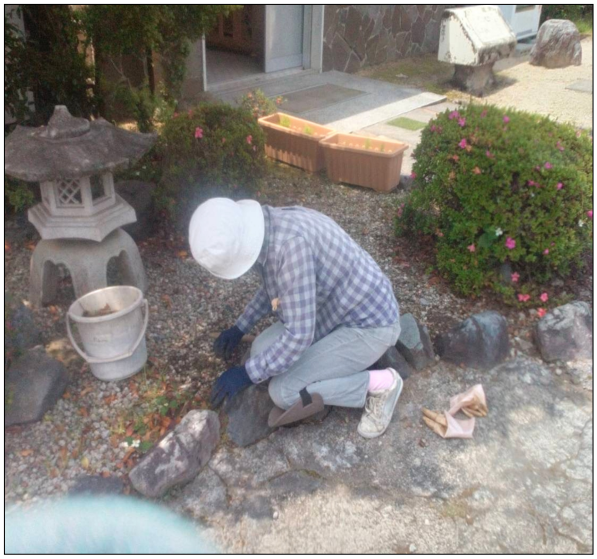
旧約聖書では、アダムとエバが人類の親であり、その子孫のノアが生きていた時に洪水でノア一家以外の人間は皆溺れ死んだ。このノアの子供、セム、ハム、ヤペテなどの子孫が人類の子孫であると言ってきた。ヨーロッパ人が、アフリカやアメリカで出会ったアフリカ人やアメリカン・インデアンが果たしてノアの子孫かと疑った。

長い間アフリカ人たちを人類と思わず、奴隷として売買し、それにキリスト教宣教師も関係していた。そのことをカトリック教会は今、謝罪している。

親神さまは、最初から人類の種となるものをすべて宿し込まれた。人間という種そのものが創り出されたと教えられている。従ってヨーロッパ人であろうと、アフリカ人であろうとインデアンであろうとアジア人であろうと、当然のことながら同じ親から生み、育てられた兄弟姉妹である。

宣言したり認知したりする必要など全くないのである。人種や民族などの違いは、はるか後から出てきたのであり、創造の初めにおいては、人間の種は皆同じように三日三夜に宿し込まれ、七十五日かかって生み出され、育てられ、成長し、人間となったのである。

6月5日 甲賀学園鹿深の家でひのきしんを実施



次回の支部ひのきしんは7月４日です。
8月10日の開催は中止となりました。

教区布教部主催 にをいがけ勉強会の御案内

日　時：8月28日（月曜日）9時半受付　10時開講
会　場：滋賀教務支庁
講　師：村田幸喜先生（本部布教部社会福祉課長）
　熱のこもったお話を聞き、共ににをいがけに歩きます。
　この旬にふるってご参加ください！

年祭の動き
お願いづとめ

教祖140年祭に向かうようぼくそれぞれの心定めの完遂とおたすけの御守護を願い、教会本部神殿で、日曜・祝日、毎月25日の午前11時30分に「お願いづとめ」が勤められます。おぢばへ帰参される方はぜひご参加ください。

教区・支部情報ネットにつながります。
支部だより、行事案内などがご覧いただけます。